

- 問1 北海道の開拓や歴史的背景に関連して、札幌周辺の状況を説明した記述として正しいものを次の中から選びなさい。(2021年 熊本県公立入試 類似)
- アイヌ民族の言葉を由来とする地名が各所に残されており、明治時代には屯田兵が配置されて石狩平野の開拓が進められた。
 - 蝦夷と呼ばれた人々が独自の地名を付け、江戸時代に大規模な稲作を行うために石狩平野の扇状地が開発された。
 - アイヌ民族の居住区を確保するため、明治政府は石狩平野を聖域として保護し、市街地の開発を禁止した。
 - 本州からの移住者が開拓使の言葉で新しく命名した地名が定着しており、現在は十勝平野に代わる大規模農地となっている。
- 問2 北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷について、近年の地域社会における役割や特徴を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。(2021年 兵庫公立入試 類似)
- 冬の時期に観光用の砕氷船が運行されるなど、地域の貴重な自然観光資源となっている。
 - 大規模な稲作を行うための水資源として、春光の用水路に直接引き込まれている。
 - 流氷の移動を妨げないように、沿岸部では一切の漁港建設が禁止されている。
 - 地熱発電のエネルギー源として利用され、周辺地域の電力をすべてまかなっている。
- 問3 北海道の人口分布の変遷について述べた次の文のうち、1950年代後半から現在にかけての状況を正しく説明しているものはどれですか。統計上、札幌市の人口は1958年の約48万人から、2018年には約195万人へと、60年間で約4倍に増加しています。(2021年 宮城県公立入試 類似)
- 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。
 - 道内各都市でバランスよく開発が進んだため、札幌市以外の旭川市や函館市でも、札幌市と同等のペースで人口が増加し続けている。
 - 札幌市の人口は増加したものの、北海道全体の人口増加率がそれを上回っているため、道内における札幌市の人口シェアは低下傾向にある。
 - 1970年代以降、札幌市ではドーナツ化現象による人口減少が激しくなり、現在は1950年代当時の人口規模を下回っている。
- 問4 北海道の道央部に位置し、広大な石狩平野の中に広がる北海道の道庁所在地について、その都市名と特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。(2025年 茨城公立入試 類似)
- 札幌市は、道庁所在地として政治・経済の中心地となっており、冬には石狩平野の積雪を利用した「雪まつり」が開催される。
 - 旭川市は、石狩平野の南端に位置する道庁所在地で、周辺では大規模な稲作が行われている。
 - 函館市は、道南地方の政治の中心地であり、青函トンネルを通じて本州との結びつきが強い道庁所在地である。
 - 釧路市は、道東地方の石狩平野に位置する道庁所在地で、霧が発生しやすい気候を利用した乳牛の飼育が盛んである。
- 問5 北海道の北東側に面し、千島列島へと連なる海域において、冬季にシベリア沿岸から流氷が押し寄せることが大きな特徴となっている海域の名前を選びなさい。(2024年 石川公立入試 類似)
- オホーツク海
 - 日本海
 - 太平洋
 - 東シナ海
- 問6 日本の積雪寒冷地では、道路の上方向きの矢印が描かれた標識が設置されていることがあります。この標識を設置する主な目的として、最も適切なものはどれですか。(2021年 兵庫公立入試 類似)
- 吹雪や積雪によって路肩の境界が見えなくなるのを防ぎ、道路の端を示すため
 - 急な上り坂が続くことを運転者に知らせ、低速走行を促すため
 - 野生動物が道路を横断する可能性が高い地点であることを警告するため
 - 除雪車が雪を捨てる場所を指定し、作業の効率化を図るため
- 問7 北海道において、スマート農業が他地域に先駆けて積極的に推進されている理由を、土地利用の状況と社会的な背景から考察した説明として最も適切なものはどれですか。(2021年 宮城県公立入試 類似)
- 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため
 - 山間部が多く機械の導入が困難なため、ICTによる遠隔操作が唯一の手段であるため
 - 高齢者の割合が全国で最も低く、新しい技術を操作できる若者が過剰に存在するため
 - 小規模な農地が密集しているため、ドローンを使わなければ肥料が隣地に飛散するため
- 問8 北海道で行われている酪農について、生産された生乳の利用や流通に関する説明として最も適切なものを選んでください。(2016年 三重公立入試 類似)
- 大消費地である関東地方から遠いため、生乳の多くはバターやチーズなどの加工用として利用されている
 - 大消費地である札幌市に近い地域の農業であるため、生産された生乳のすべてが飲用牛乳として市内で消費される
 - 熱帯地方で見られるようなプランテーション形式で、輸出を目的とした大規模な粉ミルク生産が行われている
 - 冬の寒さが厳しいため、冬季は家畜の飼育を停止し、夏季のみ乳製品の生産が行われている
- 問9 1977年から2017年にかけての北海道における稲作の動向について、作付面積と総収穫量はともに減少していますが、1ヘクタールあたりの収穫量は増加傾向にあります。このように、一定の土地面積から得られる収穫量が増える背景として、最も適切な説明はどれですか。(2019年 岡山公立入試 類似)
- 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。
 - 政府の減反政策により、小規模な農家がすべて廃業して大規模農場に集約されたため。
 - 化学肥料の使用を一切やめ、伝統的な手作業による農法に回帰したため。
 - 地球温暖化の影響のみによって、北海道全域が稲作に最適な亜熱帯気候に変化したため
- 問10 日本全体の耕地面積のうち約4分の1を占める北海道の農業について、その生産規模を正しく説明したものはどれですか。(2021年 兵庫公立入試 類似)
- 全国シェア約13.5パーセントの農業産出額をあげており、面積のシェアに比べると産出額の割合は低い
 - 農業産出額の全国シェアも耕地面積と同様に約25パーセントに達しており、面積相応の収益をあげている
 - 広大な土地を活かした付加価値の高い農業により、農業産出額の全国シェアは面積シェアを大きく上回る
 - 耕地面積は全国の4分の1だが、米の生産に特化しているため農業産出額のシェアは5パーセント未満である
- 問11 北海道の東部、釧路から中標津にかけて広がる、数十キロにわたって牧草地や牧場が続く大規模な農業地域を何といいますか。(2016年 群馬公立入試 類似)
- 根釧台地
 - 十勝平野
 - 石狩平野
 - 上川盆地
- 問12 日本の諸地域の特色をまとめた統計において、人口が約532万人であり、豊かな自然環境を背景に宿泊施設の延べ宿泊者数が約356万人、温泉地数が244箇所と全国的にも上位に位置する一方で、国宝の指定件数が1件にとどまっている地域はどこですか。(2023年 福岡県公立入試 類似)
- 北海道地方
 - 中部地方
 - 九州地方
 - 関東地方
- 問13 明治時代に行われた北海道の開拓の背景と特徴について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。(2021年 神奈川県公立入試 類似)
- 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。
 - 九州地方の沿岸警備を目的として配置された防人が、大規模な志願制度によって北海道へ移された。
 - 広大な森林を維持するため、農業は一切行わずに毛皮の採取と輸出のみを推奨した。
 - アイヌの人々の独自の文化や土地利用の権利を保護することを最優先に開発が進められた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アイヌ民族の言葉を由来とする地名が各所に残されており、明治時代には屯田兵が配置されて石狩平野の開拓が進められた。	北海道の多くの地名は、先住民族であるアイヌ民族の言葉に漢字を当てはめたものです。明治時代に入ると、警備と開拓を兼ねた屯田兵が各地に置かれ、石狩平野の扇状地などを中心に札幌の近代的な街づくりが進められました。江戸時代までは本格的な稲作は行われておらず、明治以降の技術改良によって北限が広がりました。
問2	答え 1 冬の時期に観光用の砕氷船が運行されるなど、地域の貴重な自然観光資源となっている。	流氷はかつて船舶の航行や漁業を妨げるものとして捉えられる側面もありましたが、現在では網走市や紋別市などで観光用の砕氷船が運行されるなど、冬の北海道を象徴する重要な観光資源として位置づけられています。農用水としての利用や地熱発電とは関係がなく、自然環境との共生を図りながら地域経済に貢献しています。
問3	答え 1 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。	北海道では、県庁所在地である札幌市に行政・経済・文化の諸機能が集中する「一極集中」の傾向が顕著です。1950年代後半以降、石炭産業の衰退などによって道内他地域の人口が減少する一方で、サービス業や商業が集積する札幌市には仕事や利便性を求めて人々が集まりました。この結果、北海道全体の人口が減少に転じてからも、札幌市およびその周辺都市圏の人口が占める割合は高まり続けています。
問4	答え 1 札幌市は、道庁所在地として政治・経済の中心地となっており、冬には石狩平野の積雪を利用した「雪まつり」が開催される。	札幌市は石狩平野に位置する北海道の道庁所在地であり、人口190万人を超える政令指定都市です。北海道の行政や経済の中核機能を持ち、毎年冬に大通公園などを会場として行われる「さっぽろ雪まつり」は、国内外から多くの観光客を集める一大イベントとなっています。
問5	答え 1 オホーツク海	北海道の北側に位置するこの海域は、冬になるとアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなった海水が凍り、それが季節風に乗って南下してくる「流氷」が見られることで有名です。日本の周辺海域でこのような大規模な流氷が観測されるのは、この海域特有の現象です。
問6	答え 1 吹雪や積雪によって路肩の境界が見えなくなるのを防ぎ、道路の端を示すため	北海道や東北地方などの積雪寒冷地では、冬に大量の雪が積もったり吹雪が発生したりすると、地面にある路肩のラインやガードレールが見えなくなることがあります。そのため、高い位置に固定式の標識を設置することで、積雪時でも運転者が道路の幅を正しく認識し、安全に走行できるように工夫されています。
問7	答え 1 広大な経営面積に対して従事者が不足しており、省力化の必要性が極めて高いため	北海道の農業は、全国平均の約14倍という広大な耕地面積を誇りますが、従事者の高齢化と減少が進行しています。広すぎる土地を限られた人数で管理しなければならないという北海道特有の状況が、自動運転やロボットによる「省力化（労働力を節約すること）」を強く必要とさせており、スマート農業の普及を後押ししています。
問8	答え 1 大消費地である関東地方から遠いため、生乳の多くはバターやチーズなどの加工用として利用されている	北海道は日本最大の酪農地帯ですが、東京などの巨大な消費市場から離れた位置にあります。生乳は鮮度が重要であるため、遠方への輸送にはコストと時間がかかります。そのため、北海道で生産された生乳の多くは、保存や輸送がしやすいバター、チーズ、脱脂粉乳といった乳製品に加工されてから全国に流通しています。一方で、都市近郊の酪農では飲用牛乳としての出荷比率が高くなるという違いがあります。
問9	答え 1 生産技術の向上や寒さに強い品種改良が進み、土地あたりの生産性が高まったため。	北海道の稲作は、かつては寒冷地ゆえの不作に悩まされてきましたが、農業機械の導入などの生産技術の進歩や、「ゆめぴりか」や「ななつぼし」といった耐冷性に優れた品種改良の努力により、単位面積あたりの収穫量（土地生産性）を向上させてきました。米の消費量減少に伴う減反政策などで作付面積や総収穫量自体は減っていますが、技術革新によって効率的な生産が可能になっています。
問10	答え 1 全国シェア約13.5パーセントの農業産出額をあげており、面積のシェアに比べると産出額の割合は低い	北海道の農業は「広大な農地」という特徴を持っていますが、統計で見ると耕地面積の全国シェア（約25%）に対し、農業産出額の全国シェア（約13.5%）はそれより低くなっています。これは、北海道が広大な土地を必要とする酪農や、大規模な機械化による畑作を主体としているためです。土地を効率的に使うことよりも、一戸あたりの生産量を増やす大規模経営に特化していることが、この数値の差に現れています。
問11	答え 1 根釧台地	釧路と根室の間に広がるこの地域は、火山灰土が分布していることや、夏の気温が上がりにくい気候特性から、耕作よりも家畜の飼料となる牧草の生育に適しています。そのため、広大な土地を利用した大規模な酪農が発達しました。十勝平野は畑作、石狩平野や上川盆地は稲作が盛んな地域であり、それぞれ農業の特色が異なります。
問12	答え 1 北海道地方	北海道は、広大な土地と豊かな自然資源を活かした観光業が盛んで、温泉地数や宿泊者数は全国有数の規模を誇ります。一方で、明治時代以降の開拓が歴史の中心であるため、近世以前の文化財を中心とする国宝の指定件数は、古くからの歴史を持つ他の地方に比べて少ない傾向にあります。
問13	答え 1 政府は開拓使を設置し、屯田兵による北方の防衛と大規模な土地改良を並行して進めた。	明治政府は、ロシアに対する防衛（国境の確定）と、資源の確保や失業した土族の救済を目的に北海道の開拓を急ぎました。開拓使が中心となって欧米の農業技術を導入し、屯田兵が厳しい自然環境の中で土地を切り拓いたことが、現在の北海道の農地基盤につながっています。